独立行政法人
労働者健康安全機構　大阪ろうさい病院

Osaka Rosai Chronicle

大阪ろうさいクロニクル

第16号
発行日
2026.4.1

新年度のごあいさつ
HOP・STEP・JUMP ～飛躍の三年目へ～

院　長　平松直樹（ひらまつなおき）

新年度を迎えるにあたり、皆さまにご挨拶申し上げます。

私が院長を拝命してから早いもので２年が経過し、この４月より３年目を迎えます。就任以来の３年間を、私は「HOP」「STEP」「JUMP」の３段階として捉え、病院運営に取り組んでまいりました。まず挑戦の一歩を踏み出すHOP、その取り組みを組織全体へ広げるSTEP、そしてその成果を地域へと大きく展開するJUMPです。

１年目のHOPは、院長就任の初年度として、当院の新たな歩みを踏み出す年でした。「Hospital Innovation（病院革命）」を掲げ、“働き甲斐のある職場づくり”を目標に、「見る前に跳べ」の精神のもと、さまざまな改革に着手してきました。ちょうどこの時期、当院は60年振りの新病院としてグランドオープンして生まれ変わり、最新の設備と機能を備えた新たな医療環境が整いました。救急医療や高度専門医療の体制も一層充実し、集中治療機能や手術機能の強化など、より安全で質の高い医療を提供できる基盤が整い、当院にとって新たな発展の礎となる年でした。

２年目のSTEPは、こうした取り組みを職員全体に広げ、組織の体制を築く年でした。病院の課題の見える化や職員の努力・成果を評価する仕組みづくりなどを進める中で、病院の目指す方向性が徐々に共有され、職員一人ひとりの意識の中にその理念が少しずつ浸透してきたように感じています。多職種が互いの専門性を尊重しながら協働し、より質の高い医療を提供しようとする機運も着実に高まっています。

３年目となる本年度はJUMPの年と位置づけています。こうした院内体制を基盤に、市や府と連携しながら地域医療への貢献をさらに深めてまいります。私は今年度より、「堺市がん対策推進委員会」の委員長を拝命し、行政や地域医療機関の皆さまと協働しながら、がん検診の推進やがん診療体制のさらなる充実に取り組んでいます。また、「大阪府立病院機構評価委員会」の委員長として、府立病院の運営や機能強化にも関わり、府民の皆さまの医療の質向上に貢献できるよう努めています。こうして、行政や地域医療機関の皆さまと連携しながら、市民・府民の皆さまに信頼される医療を提供していくことが当院の重要な使命であると考えています。

最後に、干支の午が力強く駆ける姿のように、本年が当院と皆さまにとってさらなる飛躍の年となることを祈念しています。今後とも、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1．地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2．高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3．患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4．勤労者医療を担ってこれを推進します
5．働きがいのある職場づくりを推進します

診療科紹介　脳神経外科

脳神経外科部長　後藤　哲（ごとう　てつ）

脳神経外科は、長年にわたり顕微鏡下手術の研鑽を積み、特に脳腫瘍治療において高い信頼をいただいてまいりました。私たちの原点は、顕微鏡下手術で培った精密な技にあります。この伝統を礎としつつ、近年では患者さまの身体的負担を最小限に抑える「低侵襲治療」を診療の柱として積極的に取り入れています。

その代表的なものとして神経内視鏡手術が挙げられます。視力障害や内分泌異常を引き起こす下垂体腫瘍等に対し、鼻腔経由でアプローチする経鼻内視鏡手術を第一選択としており、開頭することなく腫瘍を摘出することが可能です。また、最新のデジタル技術を駆使した手術支援機器を導入し、より安全で確実な手術を提供できる体制を整えています。

本年１月の新体制発足に伴い、脳血管内治療専門医が２名体制となりました。これにより、これまでの強みであった脳腫瘍治療に加え、脳血管障害への対応力を一層強化してまいります。脳血管内治療は、カテーテルを用いて「切らずに治す」治療法であり、患者さまの早期社会復帰に大きく寄与します。くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や、脳梗塞の予防としての頸動脈ステント留置術、そして超急性期脳梗塞に対する血栓回収療法、硬膜動静脈瘻や脳動静脈奇形に対する塞栓療法など、高度な専門性を要する介入を迅速に行える体制を維持しています。さらに、近々には最新の血管造影装置への更新も計画されています。高精細な画像診断と高度な治療機能を両立する最新鋭の環境を整備することで、より複雑な症例に対しても、これまで以上の安全性と精度をもって治療することを目指しています。

また、歩行障害や認知症症状を呈す特発性正常圧水頭症（iNPH）は、見逃されやすい疾患ですが、適切な診断とシャント手術によって劇的な症状改善が期待できることから、引き続き取り組んでまいります。

当科は、脳卒中・脳神経内科とも密に連携を取りながら、救急疾患から慢性疾患まで、脳神経疾患を幅広くカバーし、安心して患者さまを紹介していただける「信頼されるパートナー」でありたいと考えています。迅速な対応と丁寧な説明を徹底し、堺市および南大阪地区の脳神経外科医療の発展に尽力してまいる所存です。今後とも、大阪ろうさい病院　脳神経外科をよろしくお願い申し上げます。

神経内視鏡手術の手術風景

脳血管内治療の治療風景

診療科紹介　脳卒中・脳神経内科

脳卒中・脳神経内科部長　由上（ゆかみ）　登志郎（としろう）

脳神経内科は、脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を内科的専門知識と技術をもって診療する診療科です。

特に当科は、「脳卒中・脳神経内科」と標榜しており、脳卒中に重点をおきながら、神経変性疾患、末梢神経障害、筋疾患に至るまで幅広く診療しております。

常勤医５名（育休１名）は全員が神経内科専門医を取得しており、さらに、現在、棚橋内科・循環器内科の院長としてご活躍中の棚橋貴夫先生に、週２回スーパーバイザーとして来院いただき、各症例について深い議論を行いながら日常診療を行っております。

2025年（１－12月）の入院患者数は415例【脳卒中223例（急性期脳梗塞194例）、パーキンソン病13例、てんかん27例、髄膜炎・脳炎・脳症15例、末梢神経障害28例、重症筋無力症６例、ALS６例、その他97例】でした。超急性期脳梗塞については脳神経外科と協力して診療しており、平日日中および水曜日と金曜日は夜間も救急隊からの脳卒中直通PHSを運用しております。症例としては、rt-PA静注療法14例、血栓回収療法９例でした。当院は病院全体として救急疾患に力を入れており、当科における神経救急の入院数もさらに増加しております。

外来につきましては、現在、完全予約制にて運用させていただいておりますが、脳梗塞の疑いなど緊急性のある疾患につきましてはこの限りではなく、症例に応じて緊急対応させていただきますので、患者さまをご紹介いただいている先生方におかれましては、まずはメディカルサポートセンターを通しての問い合わせやご予約をお願いいたします。

当科は今後、さらなる診療体制の充実を目指し、地域の皆さまにご満足いただけるよう尽力させていただく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

脳卒中・脳神経内科スタッフ

診療科紹介　泌尿器科

泌尿器科部長　中山治郎（なかやまじろう）

大阪ろうさい病院　泌尿器科では、前立腺癌、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、副腎腫瘍、精巣腫瘍などの尿路性器腫瘍のほか、尿路結石、排尿機能障害、尿路感染症、尿路奇形、性機能障害など、泌尿器科領域のさまざまな疾患に対して幅広く診療を行っております。

地域医療機関の先生方との連携を大切にしており、おかげさまで外来新患者数および総手術件数はいずれも、大阪大学医学部泌尿器科関連病院28施設の中で最多となっております。手術症例数の年次推移は以下に示すとおりで、特に前立腺癌、腎腫瘍、膀胱癌などに対するロボット支援手術を積極的に行い、安全で質の高い低侵襲手術の提供に努めております。

当科の部長を兼任されていた辻畑正雄先生が副院長職に専任されることとなり、2025年４月に小生が主任部長として着任してから１年が経過いたしました。当科の医師数が８名から６名へ減少した状況からのスタートとなりましたが、外来、病棟、手術室、検査部門、そして事務スタッフと力を合わせ、患者さまやご家族に寄り添った医療を提供できるよう努めてまいりました。

2026年３月末に当科医師４名が転勤となり、４月から新たに５名の医師が加わって７名体制となっております。地域における泌尿器科診療の中核を担うべく、これまで以上に地域医療機関の先生方との連携を深めながら、医療の質を高め、地域の皆さまによりいっそう信頼される泌尿器科を目指し、診療体制の充実に努めてまいります。

引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

＜大阪ろうさい病院　泌尿器科の主な手術症例数＞

		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ロボット支援	前立腺全摘除術（RARP）	78	93	130	124	99
	腎全摘除術（RARN）			1	6	8
	腎部分切除術（RAPN）	20	20	21	24	22
	腎尿管全摘除術（RANU）			3	5	9
	腎盂形成術（RAPP）	2	4	4	4	2
	膀胱全摘除術＋尿路変更術（RARC＋UD）	21	14	13	10	9
腹腔鏡下	腎全摘除術（LRN）	24	27	16	22	10
	腎・尿管全摘除術（LNUx）	24	25	25	19	18
	副腎摘除術（LAD）	6	9	7	11	8
経尿道的	膀胱腫瘍切除術（TURBT）	178	251	271	245	206
	腎尿管結石破砕術（TUL）	117	126	197	143	139
	前立腺切除術（TURP）	50	61	39	47	21
	前立腺レーザー核出術（HoLEP）	25	30	28	35	30
その他	前立腺生検、開放手術、陰嚢内手術など	294	422	547	633	532
総手術件数		839	1,082	1,302	1,328	1,113

診療科紹介　皮　膚　科

皮膚科部長　白井洋彦（しらい ひろひこ）

平素より貴重な症例をご紹介いただきましてありがとうございます。令和４年１月に新病院に移転して４年が経過いたしましたが、おかげさまで紹介患者数は増加傾向にあります。

近隣の先生方に対しまして、厚く御礼申し上げます。

当院皮膚科では、皮膚疾患に関するあらゆる診療を行っております。

皮膚の病気といえば、皮膚だけ治療を行えばよいと思われがちですが、様々な病気の一症状として出てくることがあります。例えば、薬の副作用で全身に皮疹が出ている場合などは、原因となっている薬をやめない限りは、いくら軟膏を塗っても皮疹はよくなりません。また膠原病や血液疾患で皮膚に症状が出現してくることもあります。

そのように、総合的に診断して治療をしていく必要があります。そのため、当院では採血を含むアレルギー検査、画像検査、場合によっては皮膚の一部を採取して病理組織検査をするなど様々な検査を行って総合的に診断を行っております。

病理組織検査等で皮膚の癌と診断された場合は、当院形成外科と連携をとって治療を行ったり、大学病院等への紹介も行っています。

入院加療に関しては、帯状疱疹や蜂窩織炎の患者さまが多く入院されておりますが、重症のアトピー性皮膚炎や尋常性乾癬、また水疱性類天疱瘡などの水疱症の入院も行っています。

また、当院でもエキシマレーザーによる紫外線治療器を導入し、尋常性乾癬、尋常性白斑、掌蹠膿疱症、円形脱毛症、結節性痒疹などの疾患に対する治療も積極的に行っております。さらに皮膚科では皮膚の診療だけではなく、爪の治療も行っております。爪白癬や巻き爪の治療も積極的に行っております。巻き爪の治療は、当院では弾性ワイヤーを用いた治療を行っており、気軽にご相談していただければと思います。

今後とも地域の皆さまに信頼される医療を提供してまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

エキシマレーザー

ワイヤー法

部門紹介　栄養管理部

栄養管理室長　西條（さいじょう）　豪（たけし）

超高齢社会の進行に伴い、患者さまは主たる疾患に加えて複数の慢性疾患や機能障害を併せ持つことが一般的になっています。こうした方々は、入院時点ですでに栄養障害リスクを複数抱えていることが少なくありません。栄養障害は、免疫力低下や創傷治癒遅延を介して、投薬・処置・手術といった基本的治療の効果を妨げ、結果として治療が奏効しにくい、あるいは退院が延びるといった臨床上の不利益につながり得ます。したがって、主たる疾患治療と同時進行で、早期から栄養状態を整えることは、現在の医療において不可欠な要素です。

当院栄養部門は、これら社会背景を受け、平成28年(2016年)より業務改革を進め、旧来の献立や食材など“モノ”を対象とした栄養管理業務から、病棟で患者さま“ヒト”を対象とした栄養管理業務へと主軸を移してきました。栄養障害リスクが高い患者さまに対しては、管理栄養士が栄養ケアプロセスの概念に従って、能動的に介入を行い、主治医へ報告・相談・提案を行う体制を整えています。実際の栄養介入に際しては、患者さまへの直接訪問に加え、電子カルテ情報や多職種協議から得られる情報を基に、全身状態の把握、栄養アセスメント、治療方針の確認、問題点の抽出、栄養投与計画(経口・経腸・経静脈栄養の内容調整と必要栄養量の算出)までを一連で検討し、これらを踏まえた介入計画を立案します。計画立案後は、病棟での直接訪問をベースにモニタリングと評価を継続し、状態変化に合わせて提案を更新します。こうした取り組みにより、多職種から日常的に相談や依頼を受け、臨床現場での治療を栄養の視点から支える役割を担っています。最終的にはこれらの経験を学術的な形でまとめ、学会発表や英語論文作成までに繋げて、自分たちの業務の振り返りと、新たな知見を広く世に知らせる努力を行っております。

栄養管理に関してお困りの際は、重症急性期から退院時まで、いつでも当院管理栄養士へご相談ください。まだまだマンパワー不足で、志半ばではありますが、医療にとって“必須とされる臨床栄養”を提供できるよう、現場での実装力をさらに強化してまいります。

生体電気インピーダンス法による体組成の測定

下腿周囲長の測定

部門紹介　東４階病棟

幅広く、質の高い看護の提供を目指して

東４階病棟看護師長　藤田京子（ふじた きょうこ）

当院は堺市二次医療圏の中核病院として、地域の皆さまから選ばれる病院を目指して高度で質の高い医療・看護を提供しています。東４階病棟は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」「歯科口腔外科」「糖尿病内科」の病床を持つ混合病棟です。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では従来から行っている顕微鏡下手術に加え、TEES（Transcanal Endoscopic Ear Surgery）：経外耳道的内視鏡下耳科手術を行っており、最先端の技術で患者さまに優しい低侵襲医療を提供しています。

歯科口腔外科は、年間多数の抜歯症例に対応しており埋伏智歯だけでなく、抗血栓療法中などの全身疾患を有する患者さまへの難症例にも対応しています。また、薬剤関連顎骨壊死を防止するために自己血由来第３種再生医療GRFを併用する歯科先進医療も実践しています。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科・歯科口腔外科ともに、「みみ・はな・くち・のど」に関わる領域においては、疾患や治療の影響で「聞くこと」「話すこと」「呼吸をすること」「食べること」が障害されます。治療は手術、放射線療法、薬物療法など多岐にわたり、機能回復のためのリハビリテーションや退院後の生活のための指導が重要になります。最先端の医療に対応できるように、医師の協力のもと勉強会を開催し、知識の向上に努めています。

次に糖尿病内科における新しい取り組みをご紹介します。糖尿病内科では、糖尿病の血糖コントロールを集中的に行い、合併症の検査や予防教育を行っています。患者さま自身が「自己管理できる力」を身につけることを重視して、外来では難しいきめ細かな管理や生活指導を行い、退院後も病気と共に生活する方法を患者さまと一緒に考えサポートしています。

現在、１型糖尿病患者さまに対するインスリンポンプ導入の入院受け入れ準備を進めています。南大阪医療圏にはインスリンポンプを導入できる施設がまだまだ少ないことから、当院がその受け皿としての役割を果たすことが目標です。糖尿病看護特定認定看護師をはじめ、CDEJ（糖尿病療養指導士）を取得している看護師が中心となり、インスリンポンプに関わる知識・技術の習得や新規パスの作成など、今年度の受け入れ開始を目指して取り組んでいます。

全ての診療科において、医師・看護師だけでなく薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフなど多職種がチームとなって連携し、総合的に患者さまを支えています。今後も患者さまにとって最適な医療・看護を提供してまいります。

新規パス作成に向けて多職種でのディスカッションの様子

部門紹介　看　護　部

「地域とともに築く感染対策ー当院の取り組みと連携のかたちー」

看護部　感染管理特定認定看護師　菅（かん）　野（の）　貴（き）　恵（え）

当院では、患者さまと職員の安全を守るため、ICT（Infection Control Team）を中心に多職種が連携し、日々の感染管理活動を進めています。感染対策の院内外における主な取り組みを紹介します。

まず、ICTでは毎週、病棟ラウンドを実施し、発熱者の有無や医療関連デバイス留置中の患者さまの状況などを確認しています。現場のスタッフと対話しながら、実践の工夫点や課題を共有し、持続可能な改善策を一緒に考えることを大切にしています。

次にAST（Antimicrobial Stewardship Team）としては、抗菌薬の適正使用を管理しています。処方状況の確認や培養結果に基づく治療方針の検討を行い、主治医と協力しながら、より効果的で安全な抗菌薬治療につなげています。院内のみならず、耐性菌対策は地域全体の課題であり、継続的な取り組みが欠かせません。

さらに、地域の医療施設と連携した感染管理の活動です。他施設と合同でカンファレンスや訓練を行い、事例共有や災害・アウトブレイク時の連携強化に努めています。施設間で学び合うことで、地域全体の感染対策力向上を目指しています。

また、看護部では「看護部感染対策委員会」を組織して、毎月、病棟・外来・手術室の環境ラウンドを実施しています。清潔区域の整理、物品配置の見直し、清掃・消毒の確認など、現場の声を反映しながら安全で働きやすい環境づくりを進めています。標準予防策の遵守状況を年２回調査し、結果を分析して改善につなげています。調査結果は現場の感染対策の教育にも活用し、スタッフ全体の感染対策実践力の向上に役立てています。

感染対策は一施設だけでは完結しません。地域と連携し、互いに支え合いながら、より安全で質の高い医療を提供できるよう、今後も取り組みを続けていきます。

ICT合同カンファレンスでの訓練風景

ICT/ASTラウンド

独立行政法人
労働者健康安全機構　大阪ろうさい病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曽根町１１７９－３
TEL 072－252－3561（代表）
072－255－8076（メディカルサポートセンター）
FAX 072－255－8203（メディカルサポートセンター）
https://www.osakah.johas.go.jp/
（病院HP）